

5 南津海・南津海シードレス

(1) 生産目標

品種・系統	10a当たり収量	精果率	階級割合	糖度
南津海・南津海シードレス	4.2t以上	95%以上	M・L80%以上	13度以上

(2) 経営指標及び労働時間

経営指標（10a 当たり）

項目	南津海
①出荷量(kg)	4,000
②販売単価(円) ※1	306
③粗収益(円)	1,224,000
④生産費(円)	465,596
⑤農業所得(円)	758,404

※1 平成22年～令和元年の平均単価

ア 販売価格の推移

(単位:kg当たり円)

年次	H22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1
単価	401	313	267	274	268	304	346	311	271	306

(H30 まで:全農山口扱い、R1:JA山口県扱い)

イ 生産費の内訳

経営費の内訳	金額	備考
肥料費	48,097	販売費用内訳 賃借料・料金 100,000 包装資材費(円/10a) 32,000 運賃(円/10a) 7,000 手数料(円/10a) 134,640 合計 273,640 賃借料・料金は選果経費であり、25円/kg 包装資材:箱7円/kg、その他資材1円/kg 運賃:1.75円/kg、 手数料:市場7%、JA4% 管理費用内訳 負債利子 8,034 一般管理費 1,300 その他 162 合計 9,496
農業薬剤費	26,974	
光熱動力費	5,225	
諸材料・小農具費	6,750	
土地改良・水利費	4,741	
償却費	90,673	
販売費用	273,640	
管理費用	9,496	
合計	465,596	

※1 雇用労賃は、品種、作型の組み合わせによって変動するため計上していない。

ウ 投下労働時間（10a 当たり時間）

(ア) 月別労働時間

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
4	2	4	74	62	8	8	34	12	12	7	2	229

(イ) 作業別労働時間

整枝 せん定	施肥	中耕 除草	防除	摘果	かん水	園内 管理	収穫	運搬	選別 出荷	その他	合計
5	8	20	24	22	21	8	56	7	35	23	229

(3) 重点推進事項

事 項	推 進 内 容
1 整枝・せん定	1 樹形は開心自然形とする。 2 せん定 強せん定や切返しの多用は避け、平行枝、逆行枝、下垂枝の間引きを主体とする。
2 摘果	9月中旬までに最終葉果比30～40を目標として、小果と大果を中心に全摘果量の70%程度を粗摘果する。10月中旬までに仕上げ摘果を行う。
3 施肥と土壌管理	施肥・土壌改良 有機物の施用により、通気や排水を良くして細根を増やし、安定した樹勢を維持する。
4 病虫害防除	病虫害防除はうんしゅうみかんに準ずる。特にかいよう病の発生が多いため重点的な防除を行うとともに、かいよう病罹病枝の処理を実施する。
5 防寒・防鳥対策	採取時期は3～4月であり、防寒・防鳥対策のため、果実袋や樹体の被覆を行う。
6 予措・貯蔵	1 採取は浮皮や退色しやすい樹冠上部や外成果から行う。予措時の減量率は2～3%とする。 2 貯蔵は湿度85～90%の条件下で行い、庫内温度を低温に保つため、換気は朝晩とする。コンテナ貯蔵では乾燥防止のため不織布シートでコンテナを覆う。

(4) 南津海の作業

月	旬	生育状況	作業名	作業の内容
2月	上～中	花芽分化期	石灰及び苦土の施用 有機物の施用と深耕 ハウスの換気	土壌酸度の矯正目標はpH5.5～6.0で温州ミカンに準じて行う。苦土欠症状態が見られる園では苦土石灰を施用する。石灰資材施用後は軽く混和する。ただし極端な断根は樹勢が低下するので避ける。 有機物は10a当たり1,000kg程度、樹冠下ローテーション施用する。中耕と有機物の積極的な投入により、通気や排水を良くして細根をふやし、樹勢を強化する。 ハウス内温度が25℃以上になると浮皮が発生するため、高温時には換気を行う。
3月	中～下		ハウス栽培の春肥施用 露地栽培の春肥施用 ハウス栽培の採収 予措・貯蔵 ハウス栽培の液肥散布	樹勢や前年の結果状態や土壌条件など考慮して、施肥基準を参考に施用する ハウス栽培の項に準じる。 採収は浮皮や退色しやすい樹冠上部や外成果から行う。予措時の減量率は2～3%とする。 貯蔵は湿度85～90%の条件下で行い、庫内温度を低温に保つため、換気は朝晩とする。コンテナ貯蔵では乾燥防止のため不織布シートでコンテナを覆う。 収穫後にN主体の液肥（例：尿素500倍）とりん酸剤の葉面散布を2～3回散布する。
4月	上～下	発芽期	除草 ハウス栽培の整枝、せん定 露地栽培の採収 予措・貯蔵	肥料吸収効率向上のため除草を行う。 平行枝、逆行枝、下垂枝の間引きせん定を中心に行う。 ハウス栽培の項に準じる。
5月	中～下	開花期	露地栽培のせん定 液肥の散布 被覆ビニールの除去	平行枝、逆行枝、下垂枝の間引きせん定を中心に行う。 N主体の液肥（例：尿素500倍）とりん酸剤の葉面散布を2～3回散布する。

6	上 月	緑化完了	夏肥の施用	樹勢や結果状態、土壌条件を考慮して施肥基準を参考に施用する。
7	中 月	生理落果終了	除草	梅雨明け後に行う。
8	上 月 中 下	秋芽伸長開始	灌水 防風樹の刈り込み 台風対策 あから摘果	無降雨日数15日を目安に行う。 密閉度70%程度に刈り込む。 防風樹、防風垣の補修、補強をする。苗木や高接樹に支柱を立て誘引し、樹体被覆用の資材を用意する。排水、集水路の整備と潮風被害軽減のため散水施設の点検をする。 9月中旬までに最終葉果比30~40を目標として、小果と大果を中心に全摘果量の70%程度を摘果する。
9	上 月 中 下	根の伸長期	初秋肥施用 液肥の散布 仕上げ摘果	結果状態を考慮して、施肥基準を参考に施用する。 水溶性カルシウム剤を2~3回散布する。 10月中旬までに傷果、裾成果、小果を中心に摘果する。
11	上 月 中 下	着色開始	秋肥施用 ハウスビニール被覆 夏秋梢の処理	結果量の多い樹、樹勢の弱い樹では早目に、結果量の少ない樹でも中旬までには施用する。 施用量は、結果量を考慮して施肥基準を参考に行う。 ハウス栽培ではビニール被覆を行うが、側面は低温になるまで開放しておく。 かいよう病罹病枝のみ処理する。
12	上 月		防寒・防鳥対策	露地栽培では、園地全体のネット被覆を行う。

(5) 施肥基準

南津海（成木）10a 当たり施用量

施肥時期	時期別割合 (%)			成分量(kg)			施肥上の注意
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
春 肥 (3月下旬)	30	30	30	9.0	6.8	4.5	(1) 成木園10a当たり収量4,000kgを基準とする。 (2) 開花始めから生理落果終了時までN成分10%程度の液肥を300～500倍で3回散布する(初期肥大の促進)。
夏 肥 (6月上旬)	30	30	30	9.0	6.8	4.5	
初秋肥 (8月下旬)	20	20	20	6.0	4.5	3.0	
秋 肥 (11月上旬)	20	20	20	6.0	4.5	3.0	
計	100	100	100	30.0	22.6	15.0	

結果幼木の施用量は表中施用量の 1/2、未結果幼木は 1/3 程度とする。